

鶴見大学文学部 授業評価アンケート報告書

平成 16・17・18 年度調査結果

鶴見大学文学部 F D 委員会

平成 20 年 3 月

報告書刊行によせて

鶴見大学文学部では、平成16年度より授業評価アンケートを実施してきました。本報告書は、この16年度から18年度までの3年間にわたる結果を報告するものです。ここにいたるまでの準備として、文学部では「授業改善のためのアンケート実施委員会」を13年度に立ち上げ、その問題点を議論してきました。その過程で、各教員が個々に質問を設定し、その結果の分析を公表するという試みも行いました。そのような検討を経て、現在の質問内容とアンケート実施方法を採用しました。

現在、非常勤講師も含め、共通科目・専門科目・資格課程科目を問わず全ての授業をアンケートの対象としています。結果は、授業ごとにデータを解析し各教員にフィードバックしています。教員は自らのデータを用い、授業内容、提示方法、板書の仕方、授業環境の整備などについて次年度に向けて授業改善の努力を続けています。

本報告書では、日本文学科・英語英米文学科・文化財学科・ドキュメンテーション学科の4学科、共通教育運営委員会・資格課程運営委員会の各委員会による分析結果が記されています。

今後さらにアンケート内容の充実と、その分析を深めてゆき、教員一同の研究・研修を促進し、教育の質の向上を図ると共に、学生諸君の本学に対する満足度を増すために、努力してゆく必要があると思われます。皆様からもお気づきの点についてご指導をいただければ、なお一層の励みになります。どうぞ、今後とも鶴見大学文学部の授業改善についてあたたかい関心を持ち続けていただくようお願い申し上げます。

平成20年3月1日

文学部長 永田勝久

目 次

I. アンケート結果の分析

1) 授業に対する意欲	
1-1 授業の出席状況	4
1-2 授業への意欲的な参加	6
1-3 予習・復習	8
2) 教員の熱意・相互性	
2-1 教員の熱意	10
2-2 質問のしやすさ	12
3) 教員の教授法	
3-1 話し方・説明の仕方	14
3-2 板書・資料の提示法	16
3-3 進行速度・内容・分量	18
4) 授業の成果・満足度	
4-1 授業の理解度	20
4-2 授業の満足度	22
4-3 授業の成果	24
4-4 授業に対する興味度	26

II. 調査結果を受けて —各科および共通科目・資格課程—

日本文学科	30
英語英米文学科	30
文化財学科	31
ドキュメンテーション学科	31
共通科目	32
資格課程	32

III. 設問一覧

授業評価アンケート用紙	35
設問 1 履修理由	36
設問 14 受講者数	38

IV. まとめ

40

I. アンケート結果の分析

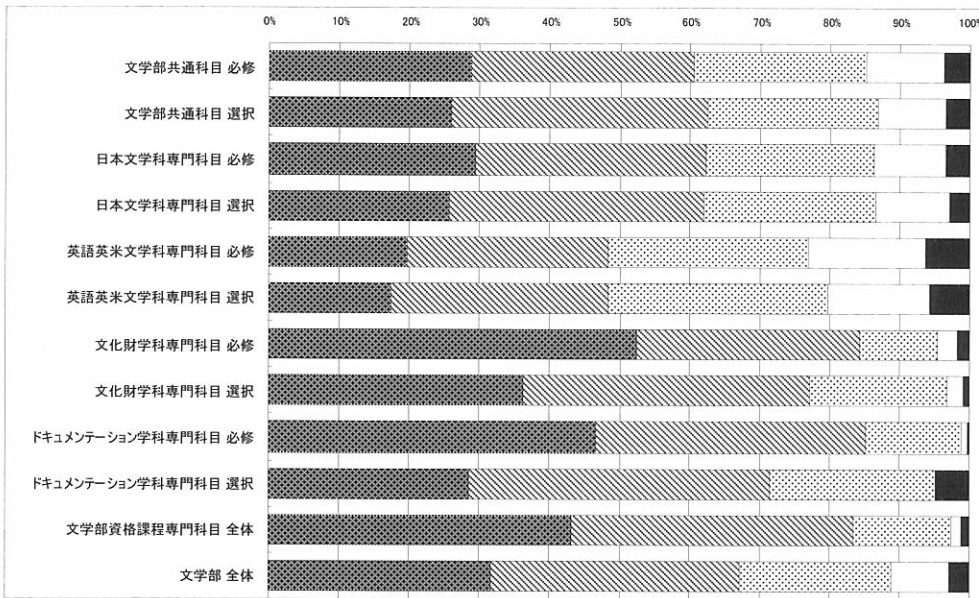
1) 授業に対する意欲

1-1 授業の出席状況

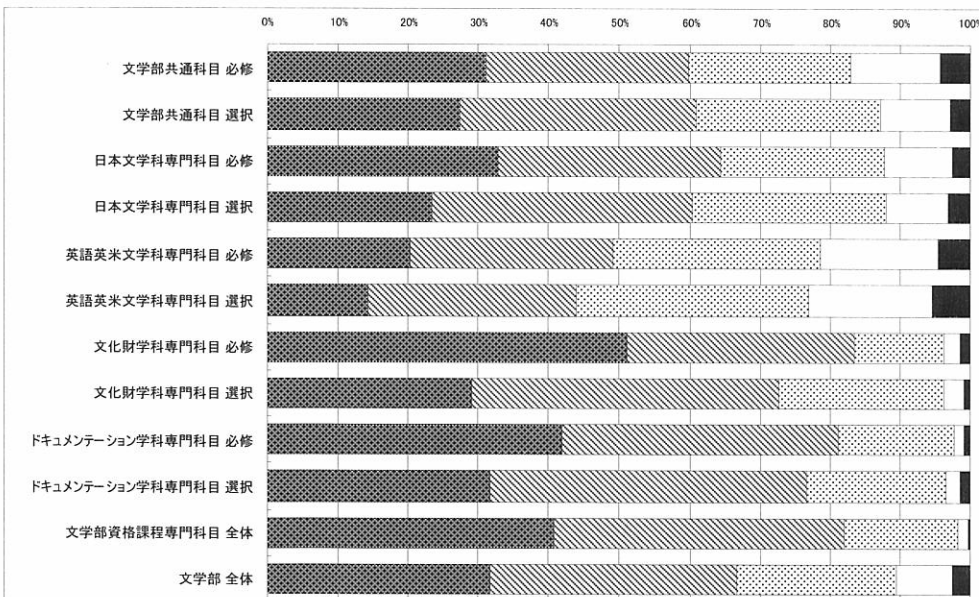
[設問 2] あなたはこの授業をどの程度欠席しましたか？



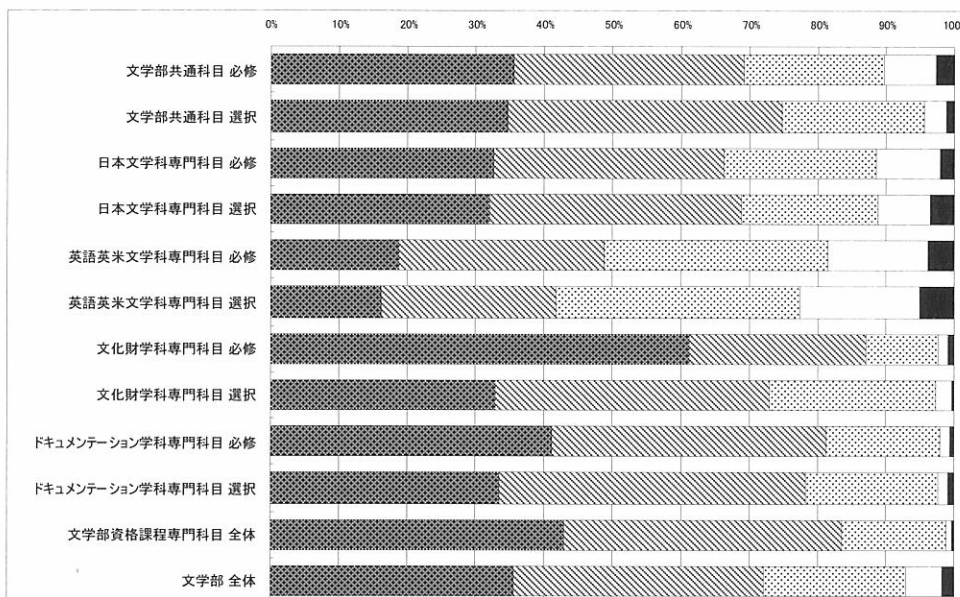
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度

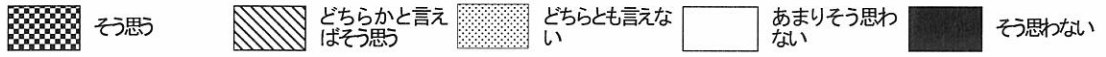


総じて必修科目の方が出席状況がよいのは予測されるとおりであった。特に、文化財学科の必修科目において「欠席なし」が6割という結果は特筆に値する。現地実習など必修にしめる実習科目の割合が高いことによるものと思われる。

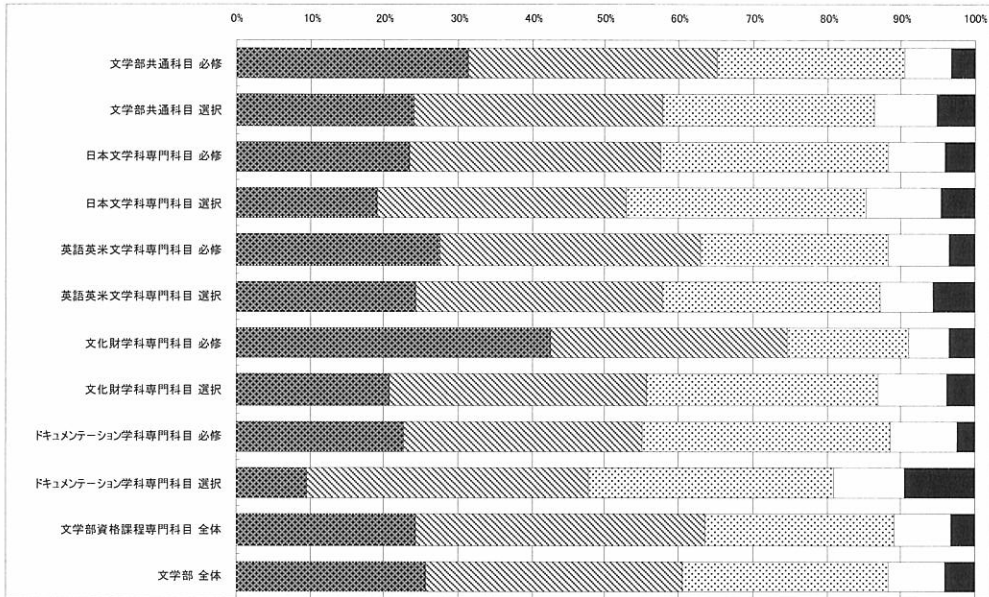
経年的に見て出席状況はよい方向には変化していないが、全般において「欠席0回」と「欠席1～2回」という回答を合わせると7割になり、出席は良好であるといえよう。文化財学科とドキュメンテーション学の2学科の出席率は特に良好である。英語英米文学科の学生においては欠席回数が他学科より多い傾向がある。

1-2 授業への意欲的な参加

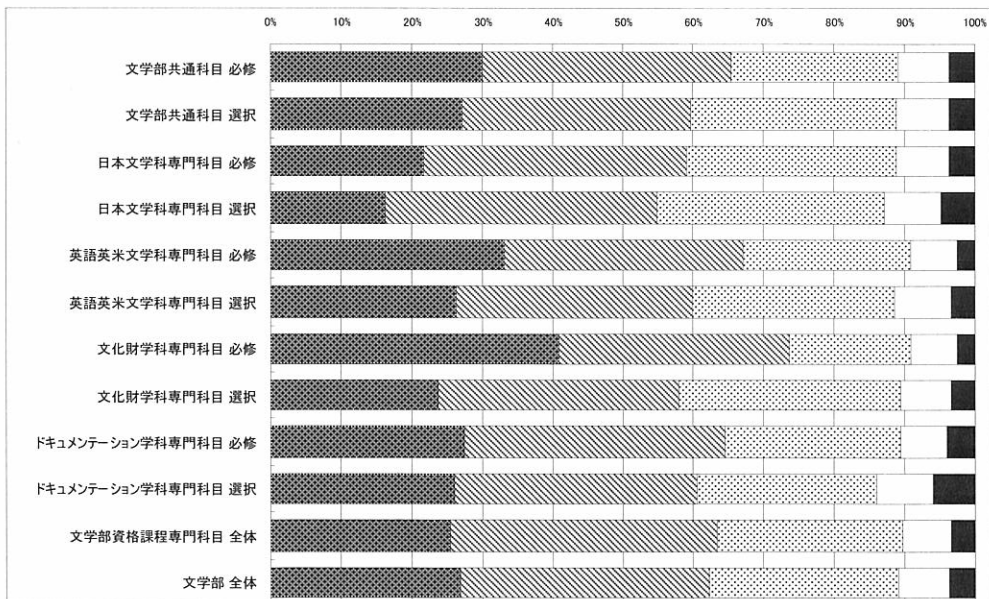
[設問 3] あなたはこの授業に対して意欲的に参加しましたか？



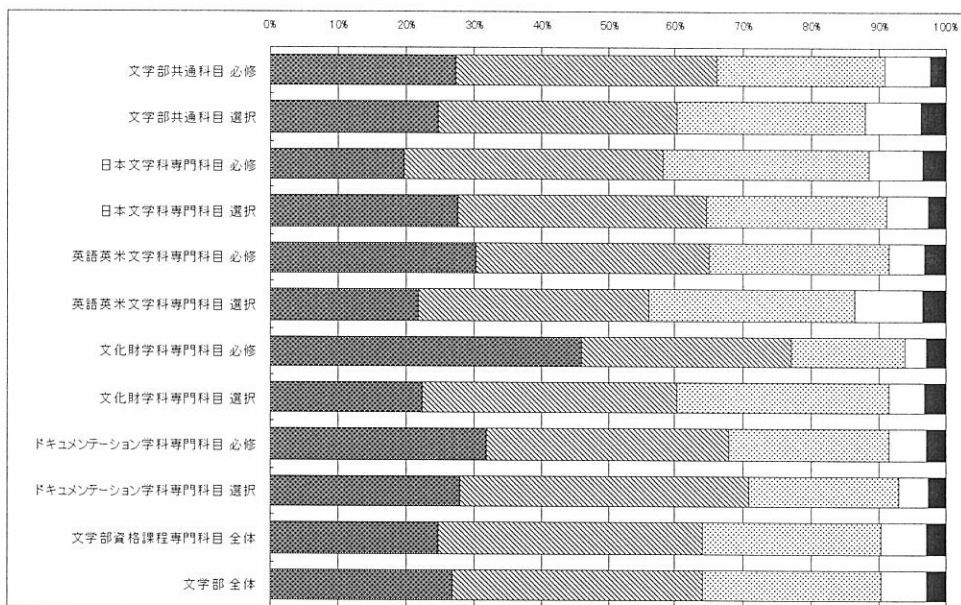
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



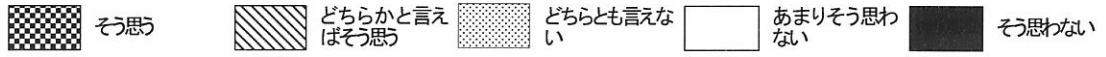
授業に意欲的に参加したかという問いに対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という回答を足すと6割以上となり、全体的に授業に対して積極的な関与がみられると考えてよいだろう。特に文化財学科の必修においては、意欲的に参加したと答えた学生が多かった。

ドキュメンテーション学科は平成16年度に開設されており、当該年度のアンケート調査時に配当されていた専門科目はわずかであった。そこで経年変化を見ていくと年を追うごとに「意欲的に参加した」とする回答が増加しており、専門科目以外の授業に比しても学生の意欲の高さを見ることができよう。平成18年度の結果から見ると文化財学科およびドキュメンテーション学科の必修科目において「意欲的な参加をしている」と回答した学生が多かった。

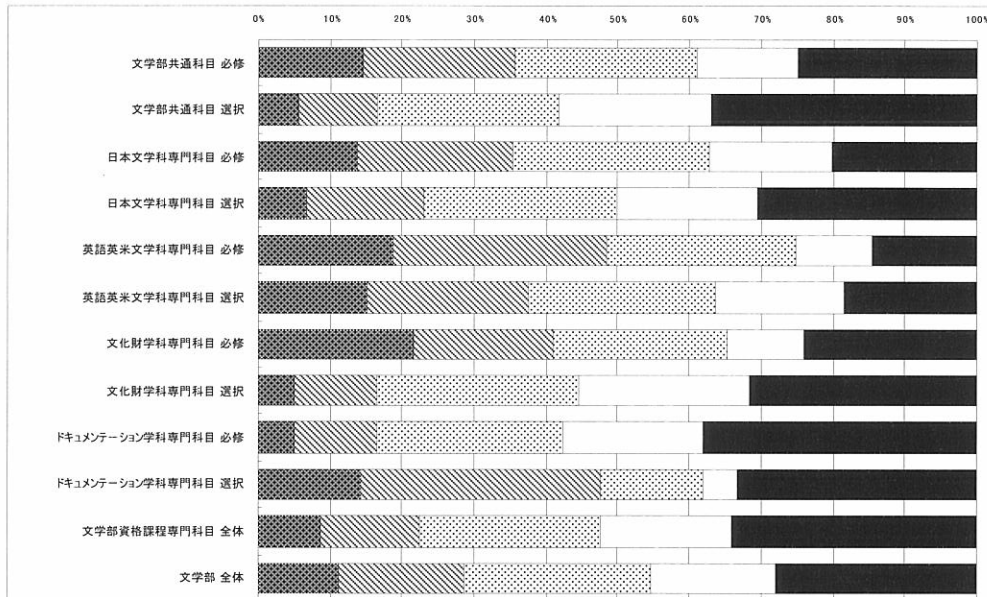
この2学科においては、実習科目が多くをしめており、講義形式の授業よりも実習授業の方が、授業への積極的関与は大きくなる傾向があるのかもしれない。

1-3 予習・復習

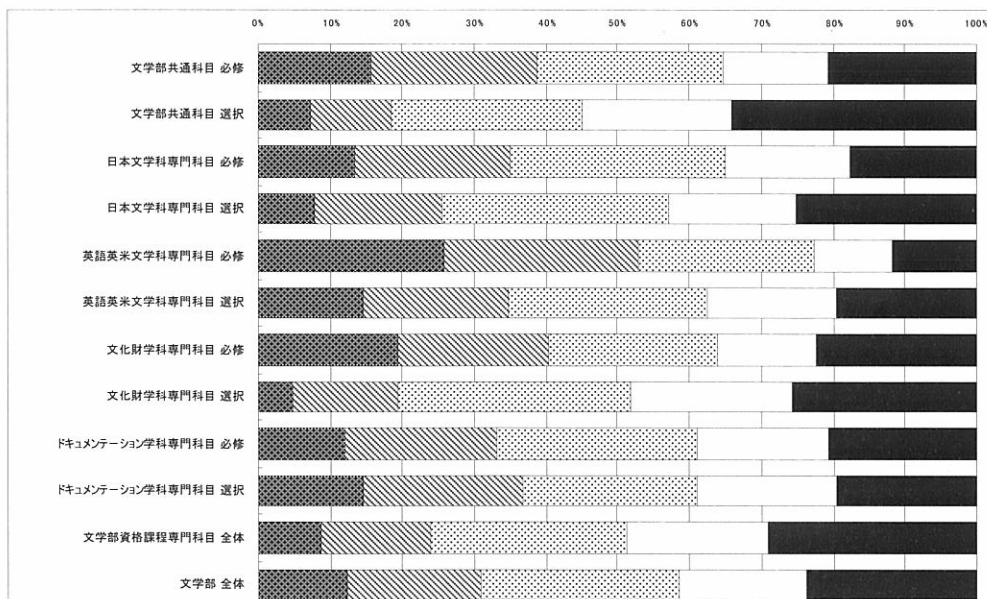
[設問 4] あなたはこの授業に対して予習・復習など授業外の学習をしましたか？



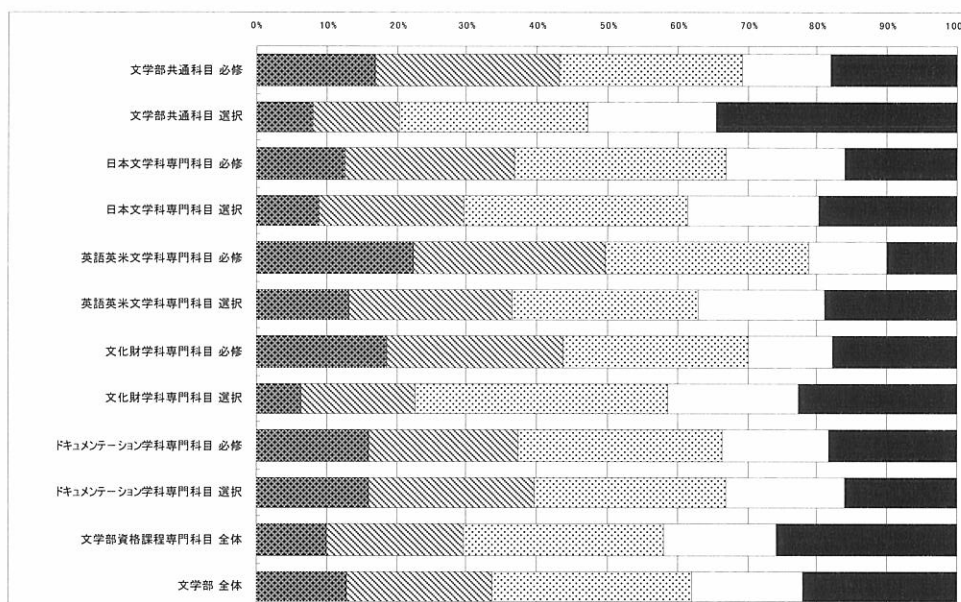
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



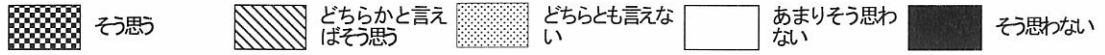
この設問では学科間のばらつきが見られた。英語英米文学科において4割を超える学生が、授業外の学習を行っている。ドキュメンテーション学科においても似た傾向が見られ、語学や技術などを習得するために、授業外の学習の機会が多いのであろう。

一方、共通科目と資格課程科目においては授業外学習をする学生が少ない。講義科目が多く、授業中に個人的な評価を受ける機会がないため、授業外の学習への動機付けが低いのであろう。今後、共通科目・資格課程科目においても、課題とそのフィードバックといった授業工夫が必要であろう。

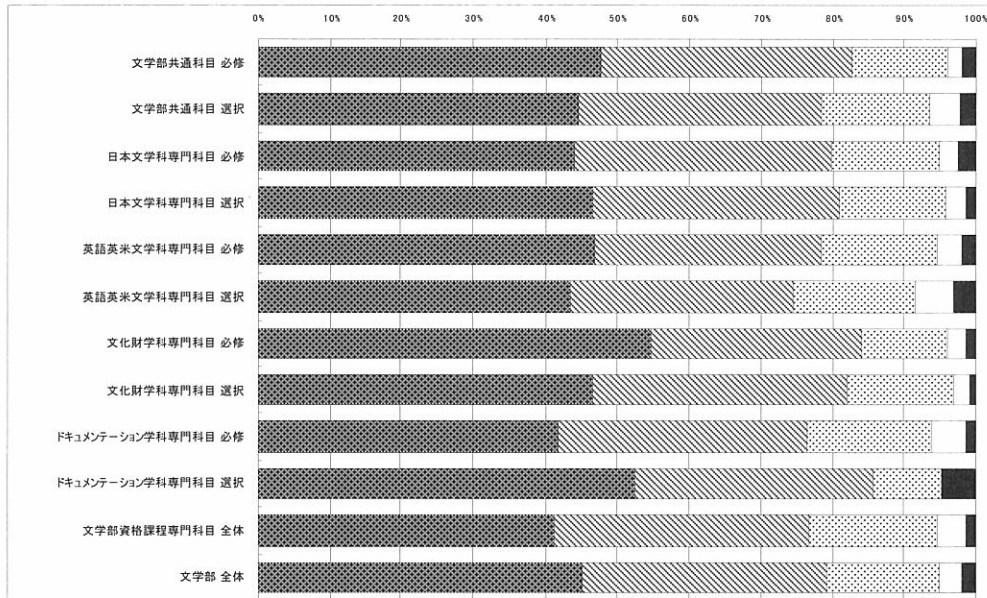
2) 教員の熱意・相互性

2-1 教員の熱意

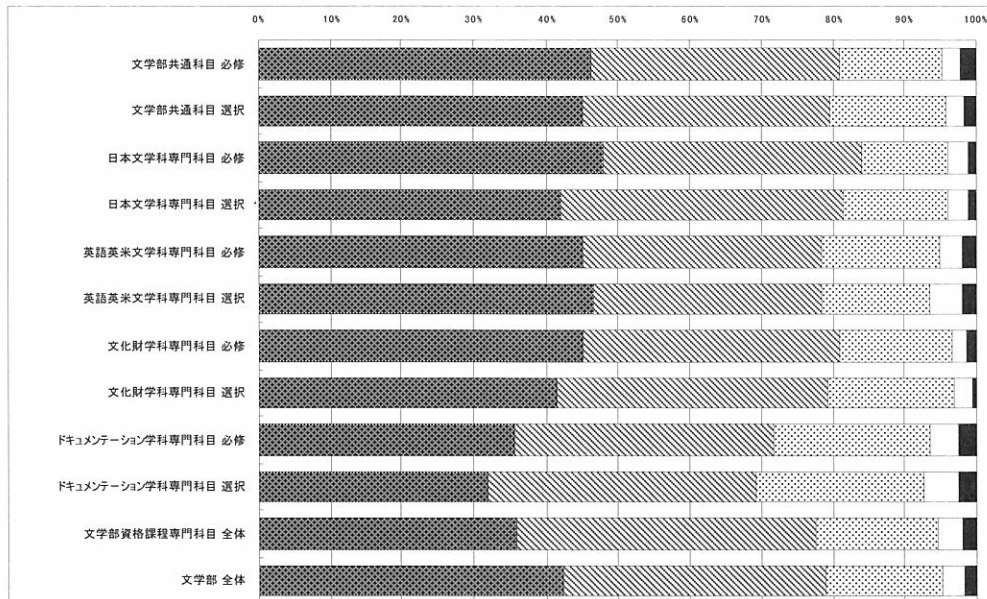
[設問 5] 教員に授業に対する熱意が感じられましたか？



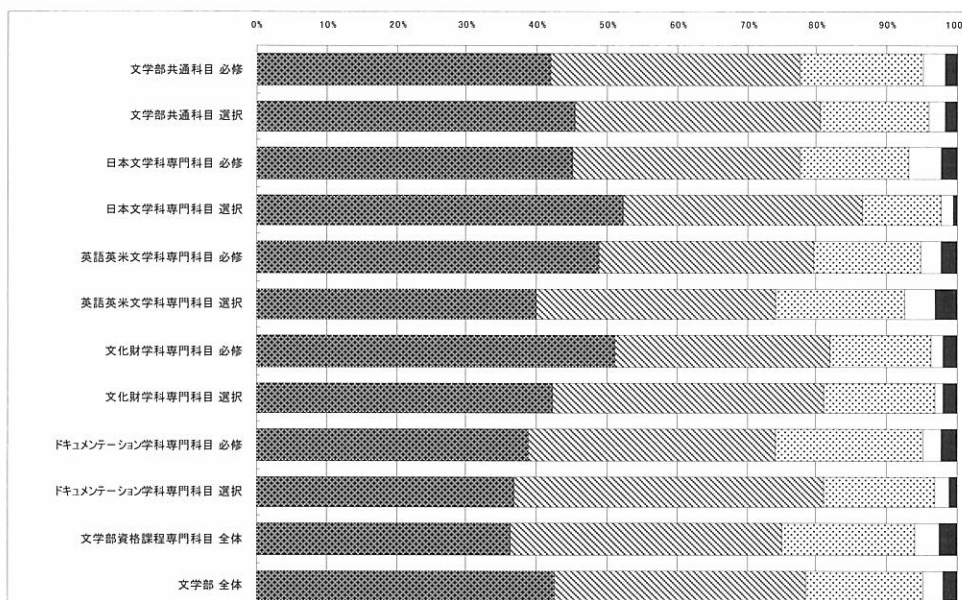
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



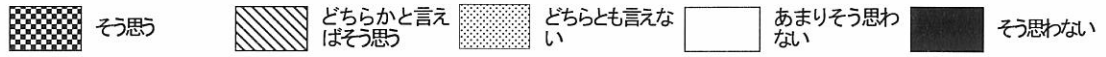
この設問の結果は授業に対する満足度とも相関する傾向があるが、文化財学科の特に必修科目で高い評価が出ている。これは、実習、演習等、必修科目の中で専門性の高い科目が多く、教員の熱意が伝わりやすいことが一因と考えられる。同時に1クラスあたりの受講者人数もこの質問の結果に影響していると考えられる。それも実習、演習等の少人数授業の多い科目で評価の高くなる一因であろう。

日本文学科において、選択科目でよい評価を得ているのも専門性が高いことと関係がある。一方、ドキュメンテーション学科で「そう思う」の回答で低い数字が出ているのは、技術的内容の多い授業について、十分消化できないという学生の意識が、教員の熱意の問題として向けられたものかもしれない。

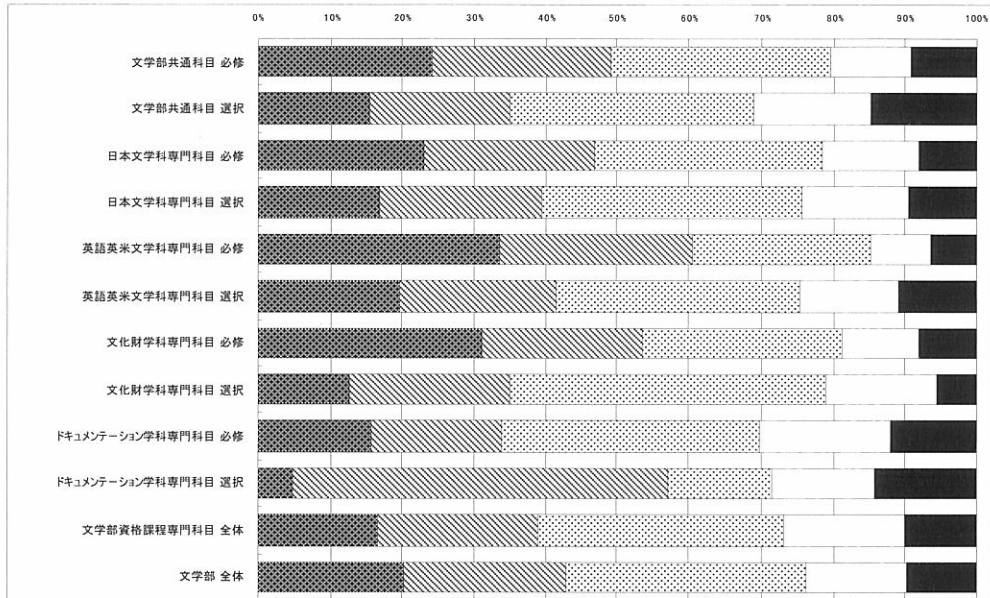
文学部全体として、教員の熱意の評価に3年間に変化が見られないのは、FDの取り組みにおける今後の課題である。

2-2 質問のしやすさ

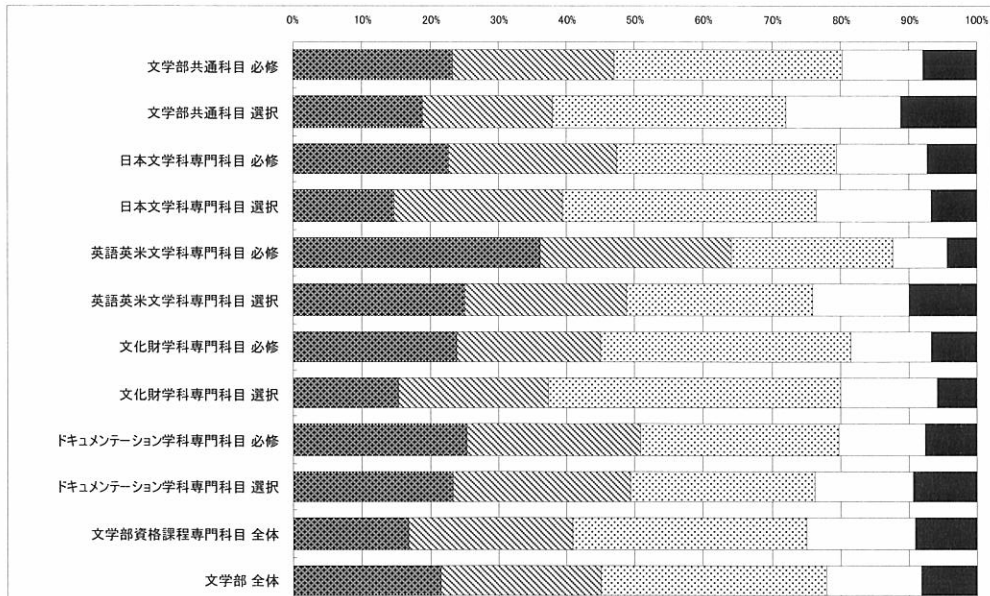
[設問 9] 教員の授業は質問や意見が言いやすい授業でしたか？



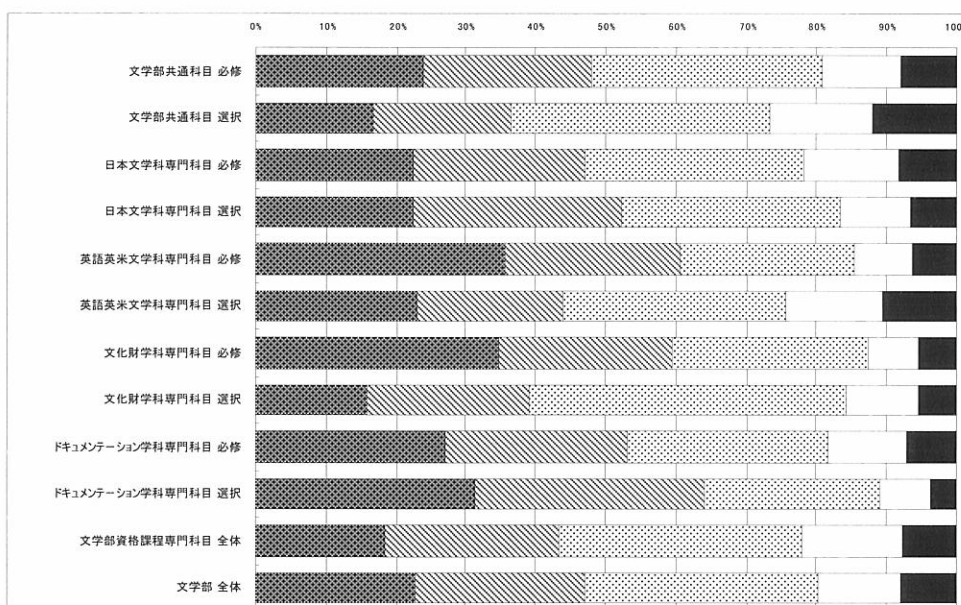
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



この設問に対しては、英語英米文学科の特に必修科目において高い評価が出る傾向がある。これは英語科目において学生の側からの表現、発信を重視するという科目的性格と同時に、演習形式が多く、学生の個々の発表を重視することが多いことによるものと思われる。

一方で共通科目においては、知識の伝達にかかわる科目が多いためか、この設問における評価は低い。

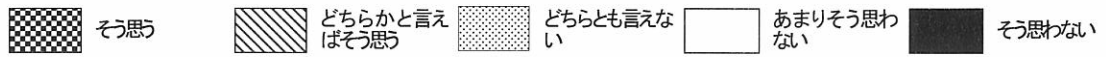
3年間の変化を見ると、ドキュメンテーション学科において、評価が高まっていることは注目に値する。

学生が質問しやすい授業に向け改善してゆくことは、今後の大学教育における重要課題である。FDの取り組みの中で、教員全体に具体的な提案をしてゆく必要もあるだろう。

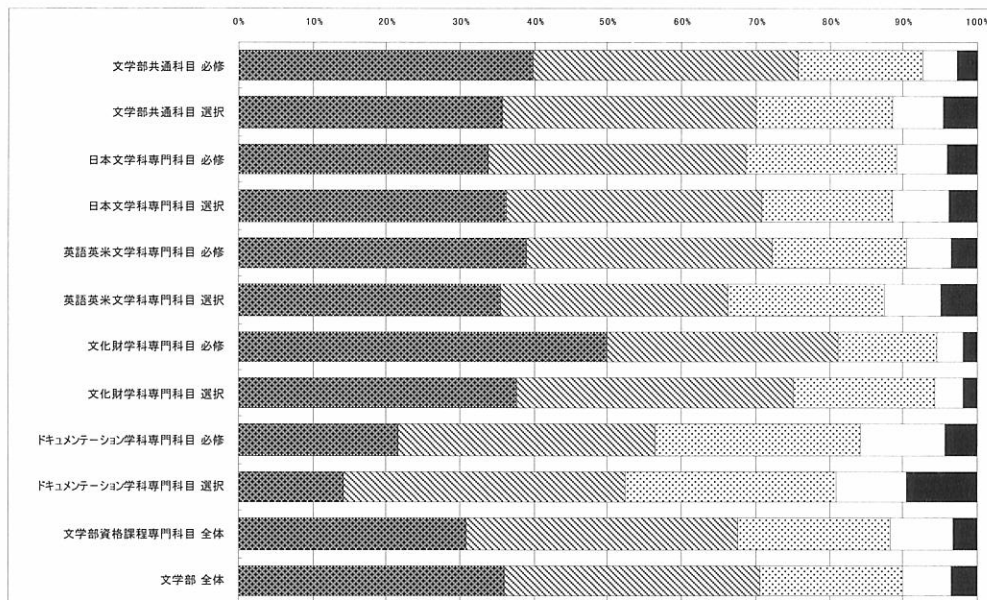
3) 教員の教授法

3-1 話し方・説明の仕方

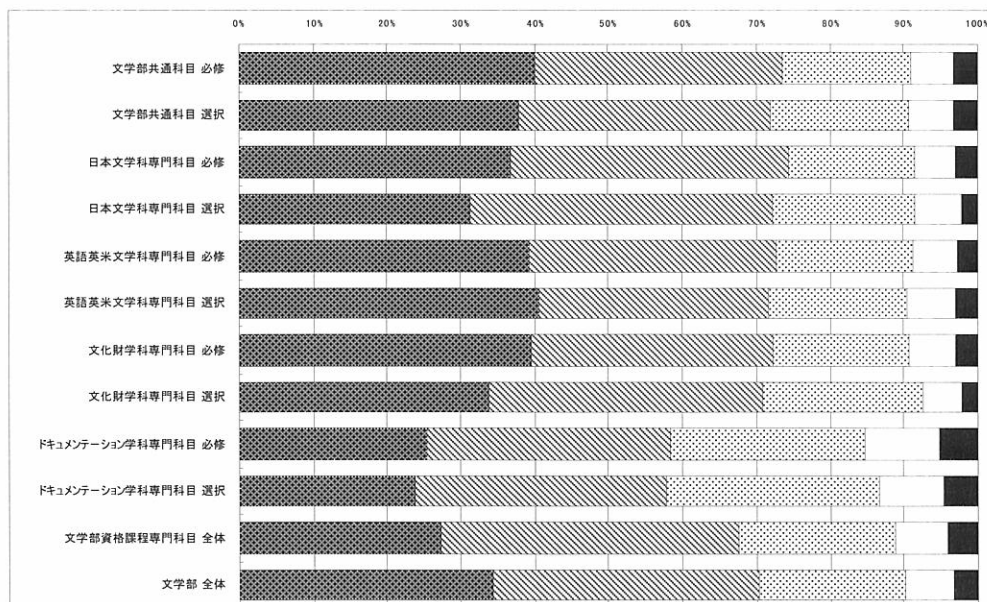
[設問 6] 教員の話し方・説明の仕方は適切でしたか？



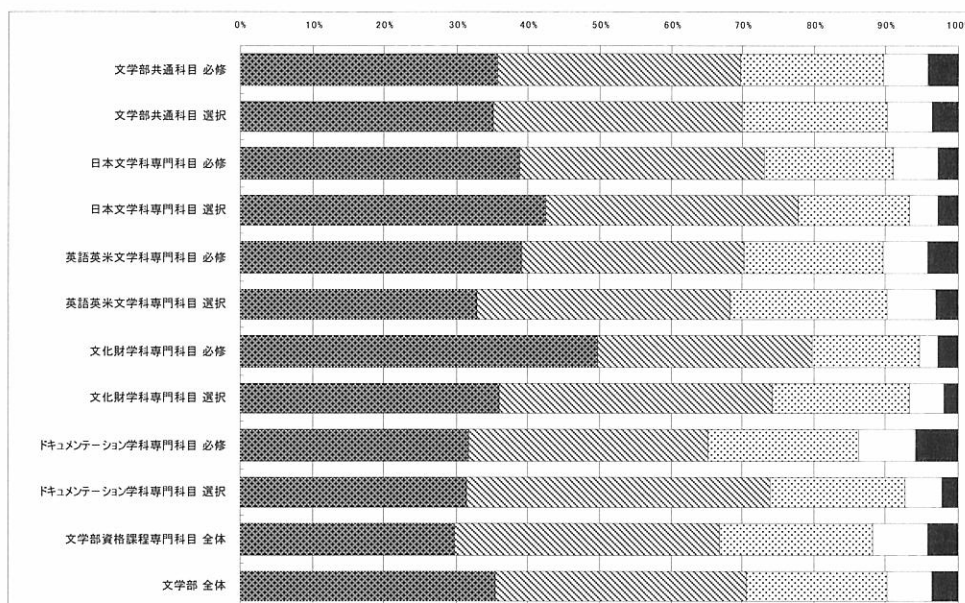
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



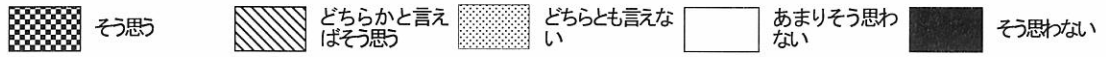
この項目においては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という回答を合わせると、ドキュメンテーション学科を除き、この3年間、全学科・全科目7割を超え、概ね学生の満足度は高いと言えよう。

特に文化財学科の必修科目で「そう思う」とする回答が高い。実習授業が多いことに起因するか。ドキュメンテーション学科の評価が低い、同学科は平成16年度に開設した新学科であり初年の評価は低いものの、18年度にはほぼ他学科と同程度の水準にまで上昇している。ノートPCを利用する授業が多く、学生にとっては多少負担が大きかったということがあるかもしれない。

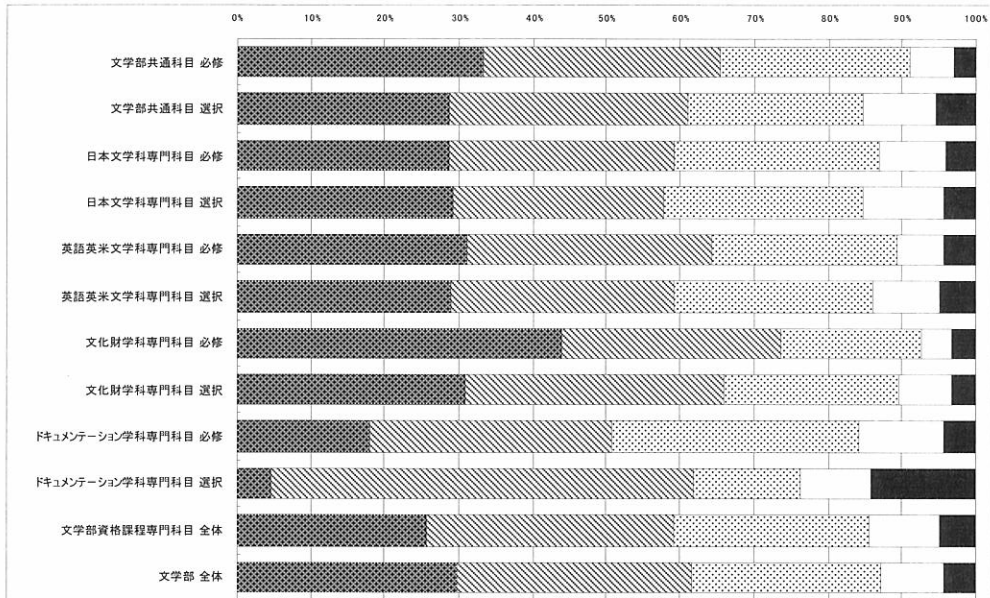
資格課程科目で「そう思う」との評価がやや低いのは、履修学生の要求水準の高さの表れとも考えられようか。

3-2 板書・資料の提示法

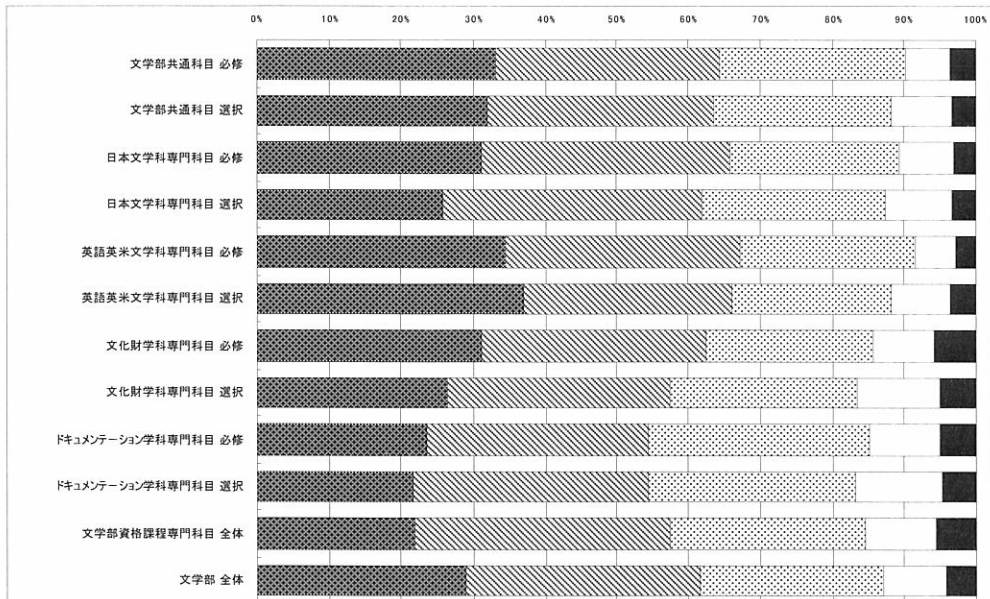
[設問 7] 教員の板書や資料の示し方は適切でしたか？



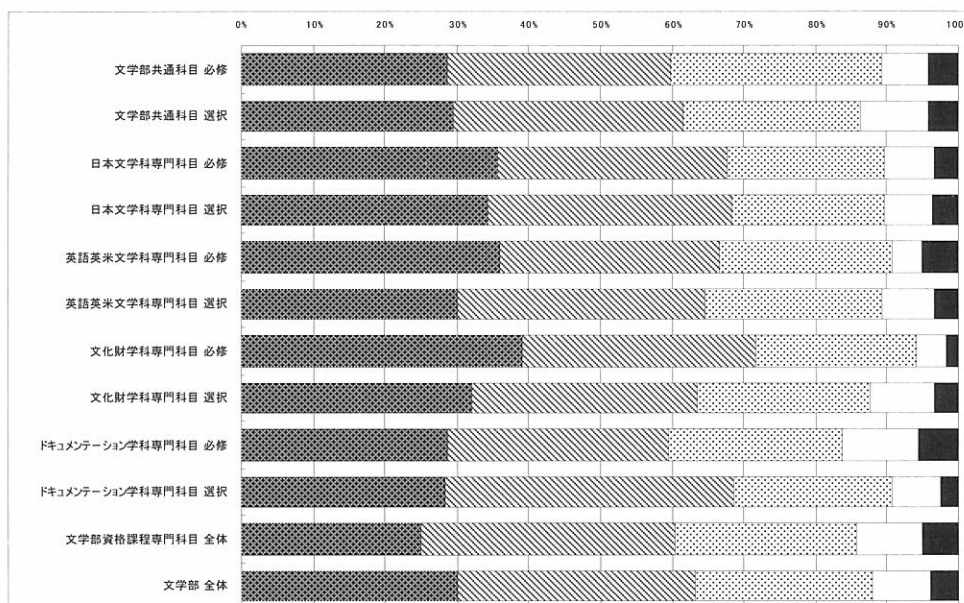
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



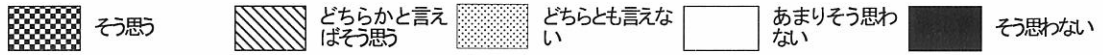
この項目においても評価は良好で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という回答を合わせると、ドキュメンテーション学科を除き、この3年間、全学科・全科目6割を超えている。

前設問と同様、文化財学科の必修科目の評価の高さが際立つが、日本文学科・英語英米文学科の必修・選択科目でも「そう思う」の回答が漸増している。ドキュメンテーション学科では、通常の板書とは異なり、ノートPCを介しての説明が多い上に、資料をサーバよりダウンロードする授業などもあるせいか多少苦戦している。平成18年度には他学科の水準に追いついてきているが、図書館の協力を得て授業に貴重書を利用するなどしたことが、貢献しているのではなかろうか。

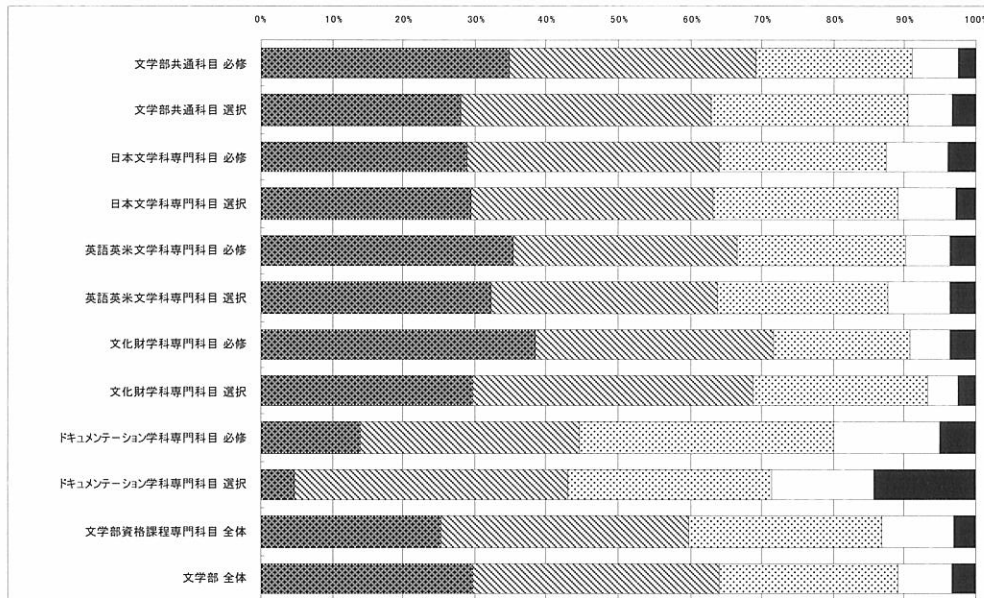
資格課程科目の評価が数ポイント低いのは前設問と同様の傾向である。

3-3 進行速度・内容・分量

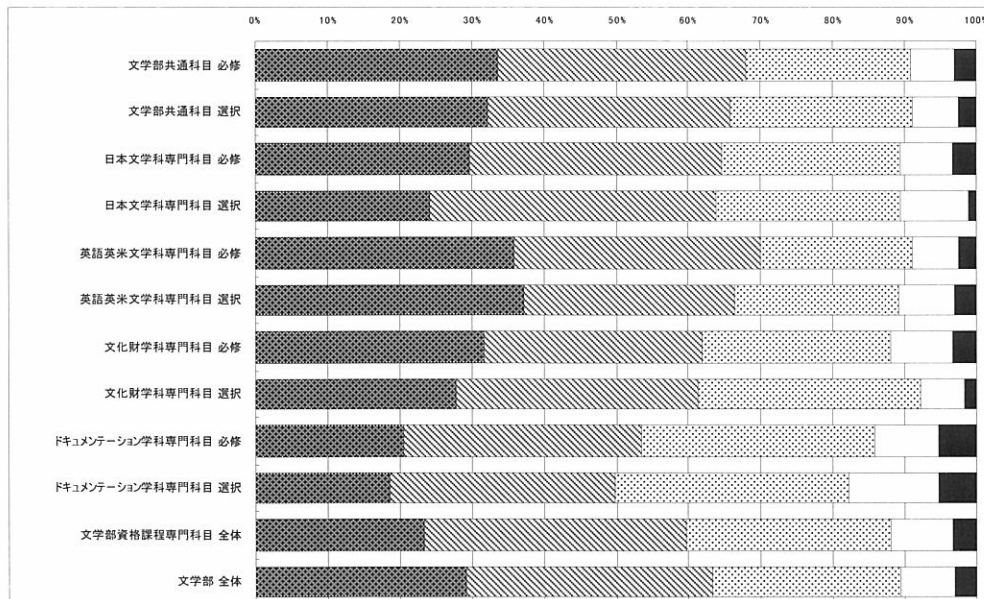
[設問 8] 教員の授業の進行速度や内容の分量は適切でしたか？



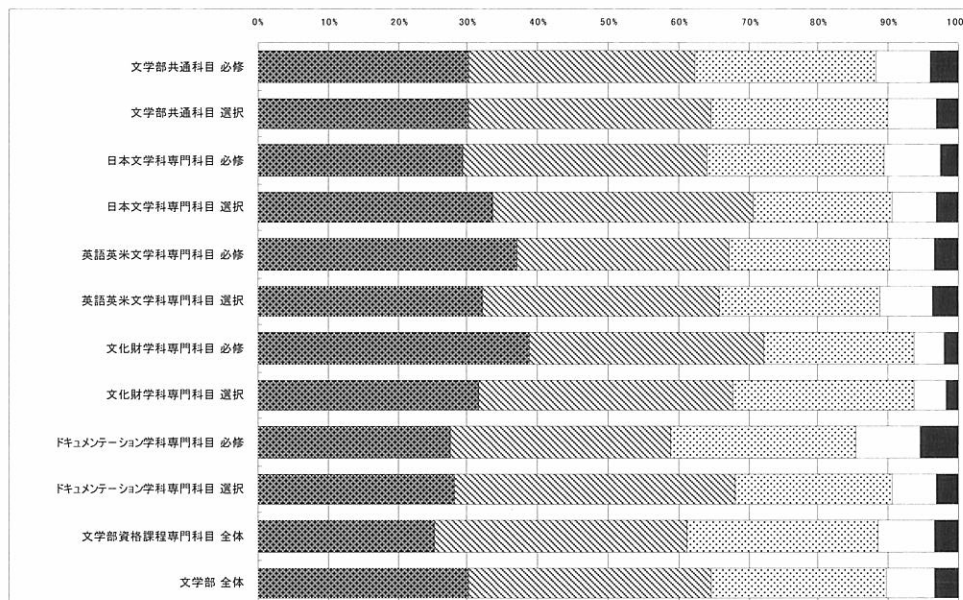
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



回答の7割弱が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」であり、3年間の評価は堅調である。

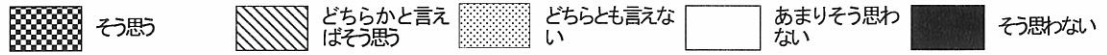
日本文学科の専門科目において平成17年度に「そう思う」とする回答が低くなったが、18年度には10ポイント以上(16年度と比較しても5ポイント)の上昇を見せている。文化財学科の必修科目は設問6・7と同様評価が高い。ドキュメンテーション学科も18年度には他学科とほぼ同程度の満足度を得ているが、年次進行とともに学生のノートPCの習熟度が上がってきていることが一因と推測される。

設問6・7でも見られた傾向であるが、18年度の共通科目において「そう思う」の回答が前年に比してわずかであるが低下している。18年度には共通科目のカリキュラムの改革が行われ、これまでになかった科目も設置されている。18年度の評価が一時的なものか、今後の動向を注視する必要がある。

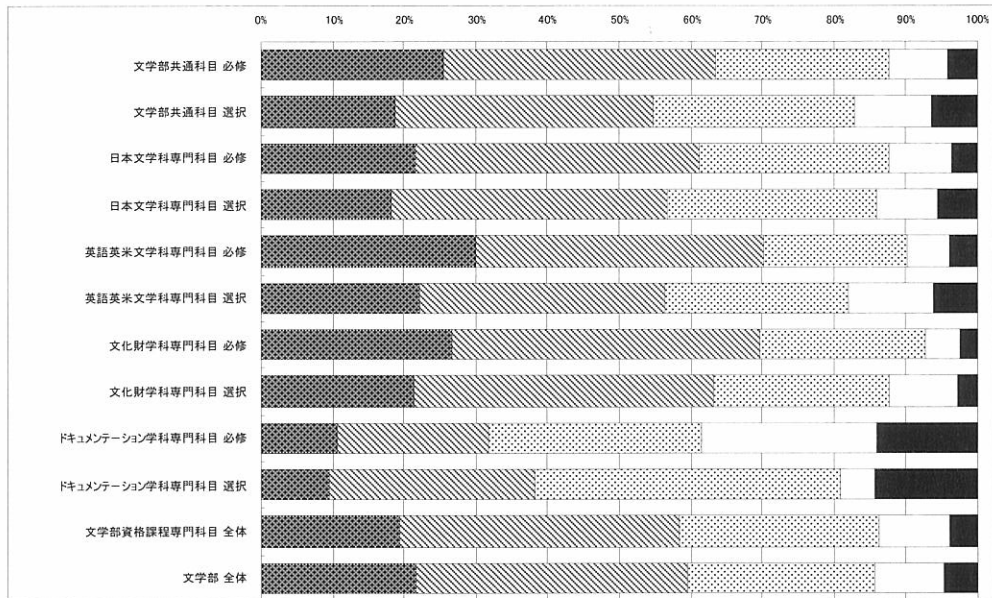
4) 授業の成果・満足度

4-1 授業の理解度

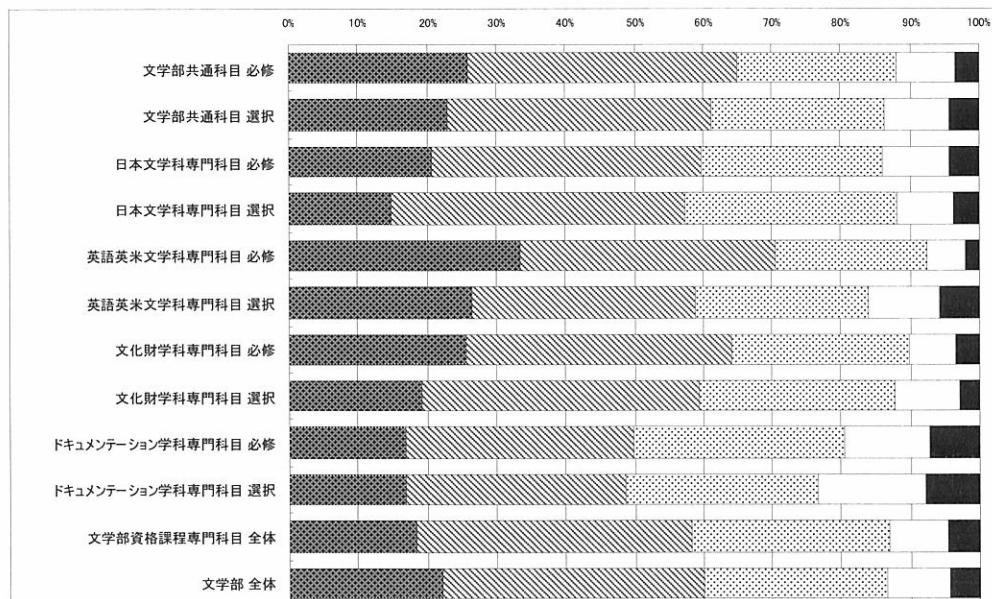
[設問 10] あなたは授業内容を理解できましたか？



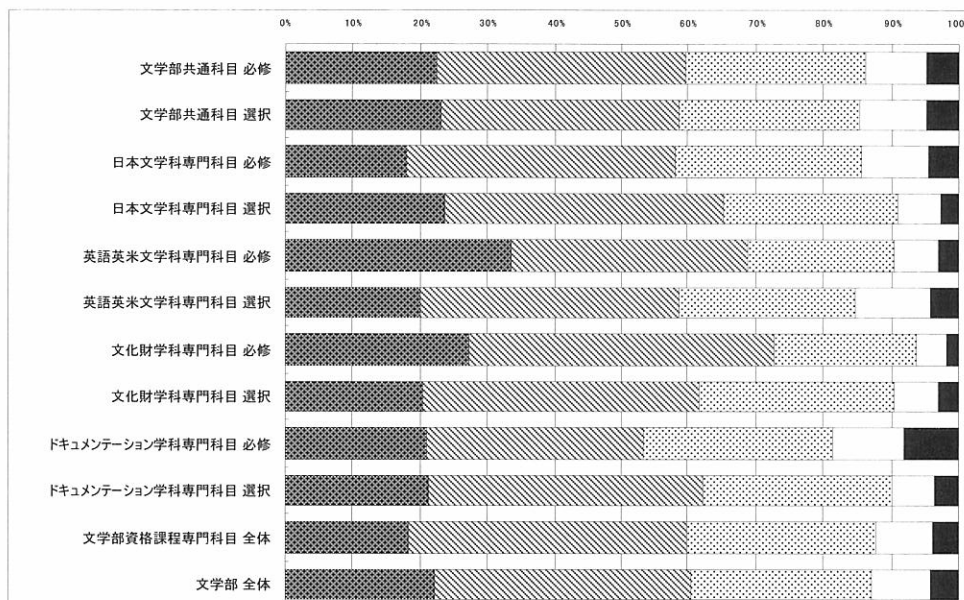
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



授業内容の理解度に関してであるが、おおよそ文学部全体を見ると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、3年間とも6割という数字で、ほとんど変化がないといえよう。

各項目を見ると、英語英米文学科専門科目の理解度は、7割前後と3年間にわたり高い評価を受けており、教員の努力と指導の方向性が表れているといえよう。ついで、文化財学科専門科目の評価も高い数字を示している。

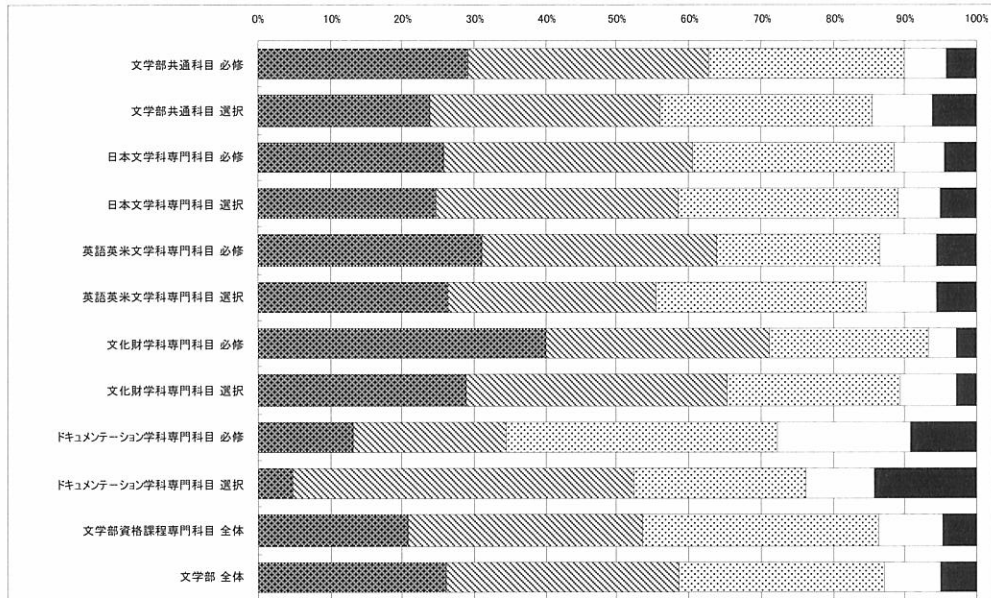
また、ドキュメンテーション学科の科目においては若干評価が低い傾向が見られるが、平成16年度から比較すると、17年度、18年度と評価が確実に上がってきている。これは、何度も記すように開設当初からの積み上げが、結果として表れてきたといえよう。

4-2 授業の満足度

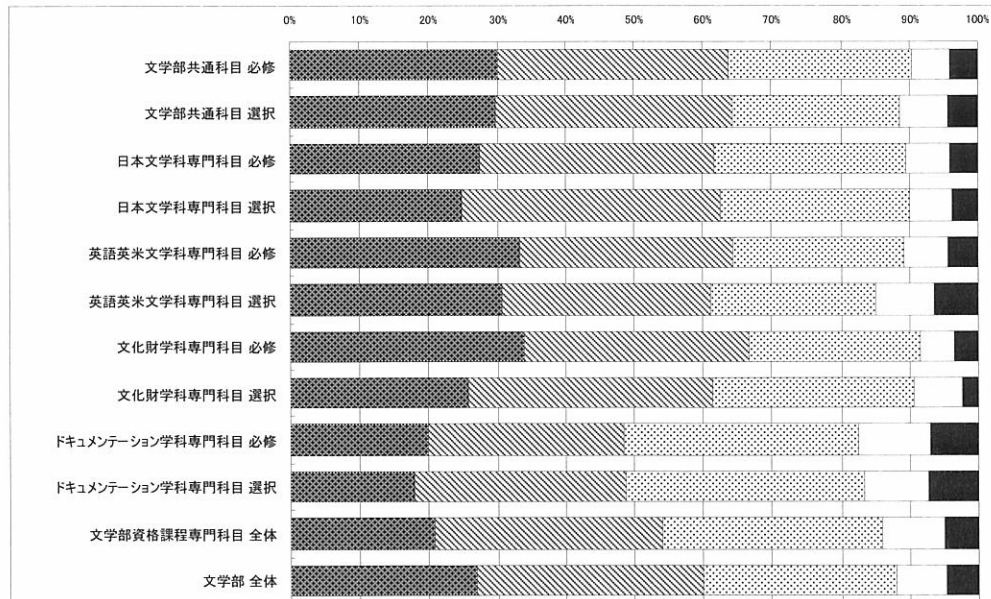
[設問 11] あなたは授業内容に満足しましたか？



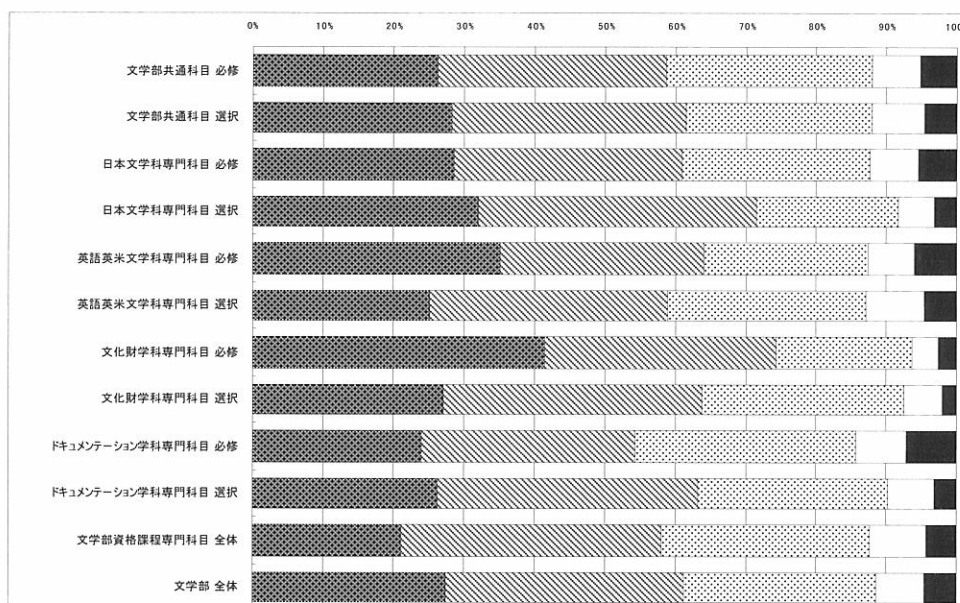
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



授業の満足度に関しても、文学部全体を見ると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、6割ほどの評価である。この数字は3年間ほとんど変化がないが、細かくは若干上昇の傾向が確認できる。

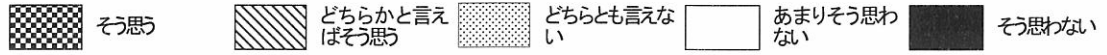
その中でも特に、文化財学科の必修科目では「そう思う」が4割を超え満足度が高い。出席の良好さとも合わせて、実習科目への学生の積極的関与、満足度の高さがうかがえる。次いで日本文学科の選択科目、英語英米文学科の必修科目にも高い評価が確認できる。日本文学科の選択科目などは、より専門性が高くなることにより、自分の興味と合わせ満足度が上がるのであろうか。

ドキュメンテーション学科の科目においてはやや低い評価が見られるが、平成16年度から、17年度、18年度と高い評価へと堅調に推移している。

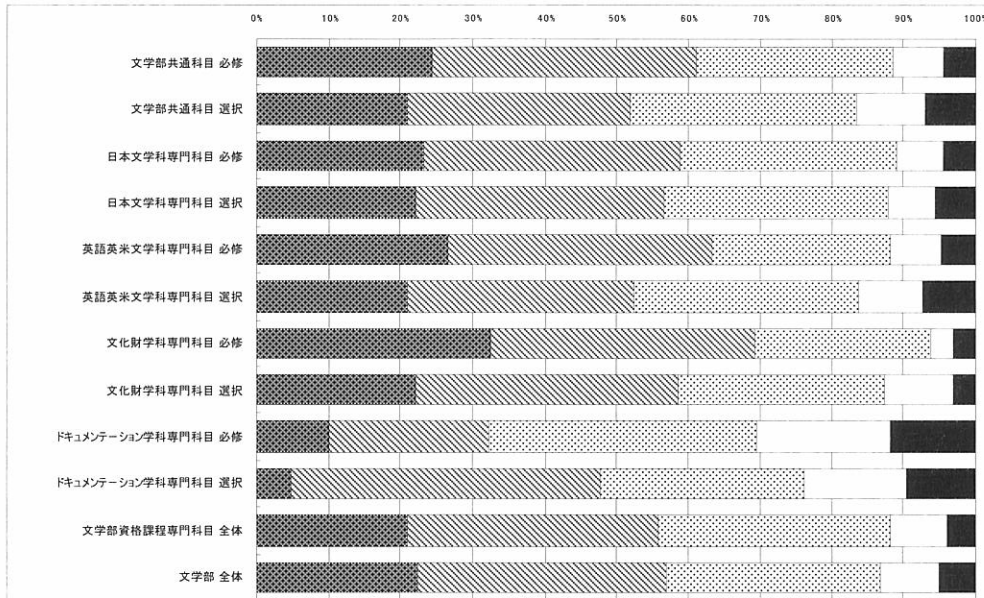
この「満足度」は、設問13の「興味度」とも関連しながら、学生のニーズにどれだけ対応できているか改めて見直す必要がある。

4-3 授業の成果

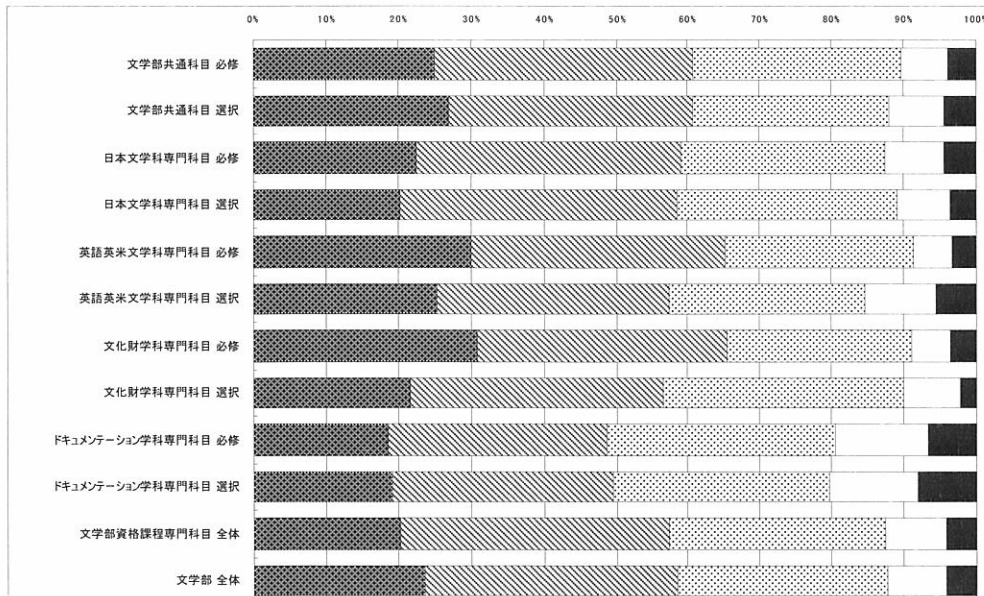
[設問 12] あなたは授業を受けた成果がありましたか？



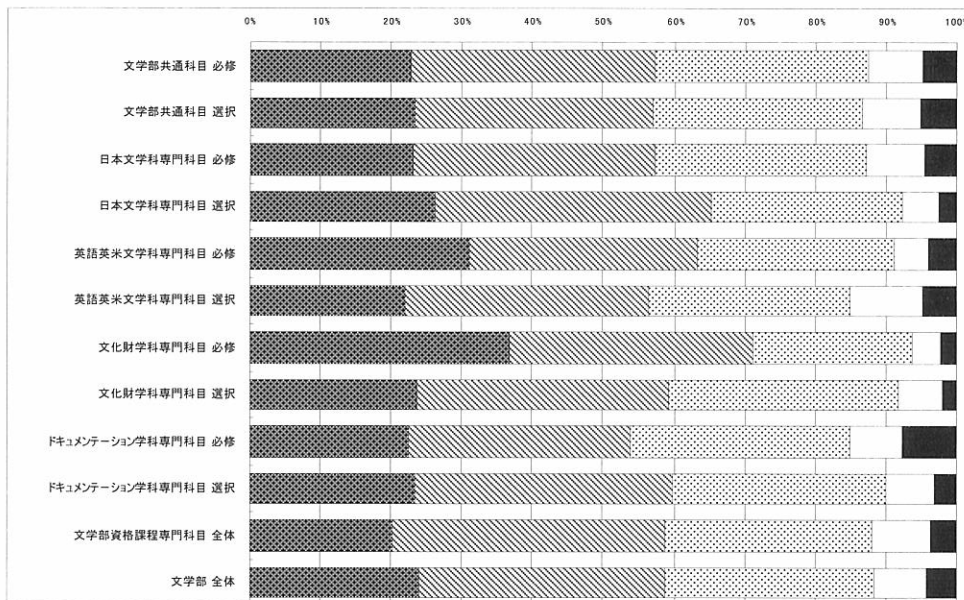
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



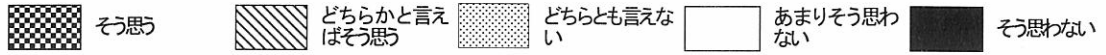
授業を受けた成果に関する問いであるが、文学部全体を見ると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、これもほぼ6割をしめる評価である。学生が授業を受けた結果として、得るものが多かったということで、この結果も比較的良好なものといえよう。しかし、実際に「そう思う」という積極的な評価は2割を若干超える程度で、この前後の設問と比較すると低い値を示している。さらに、この割合に関しても3年間ほとんど変化がない点は、教員側の努力という点も考え、今後の課題といえよう。

そうした中、文化財学科の必修科目、次いで英語英米文学科の必修科目にも高い評価が確認できる。

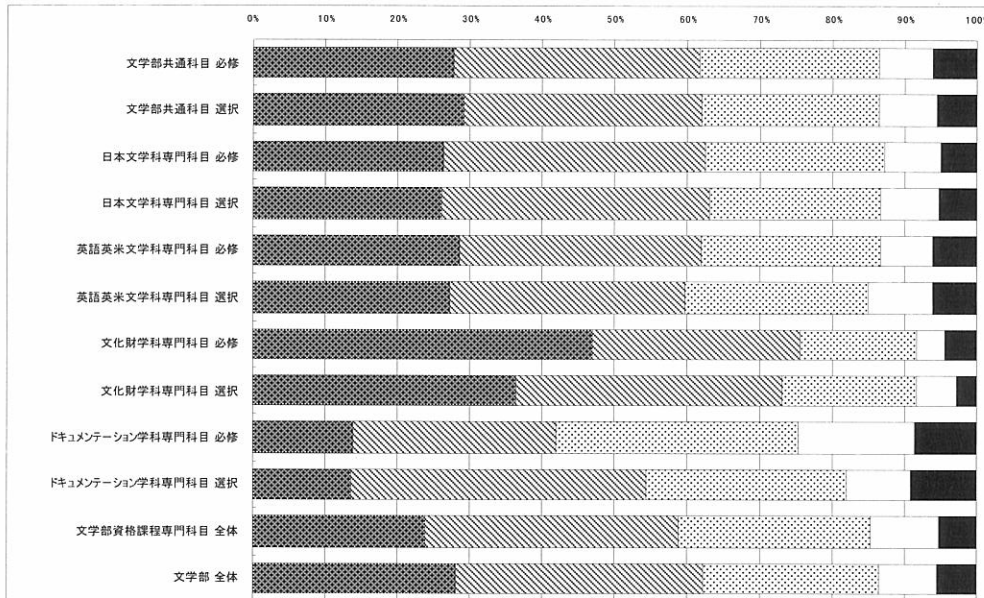
また、ドキュメンテーション学科の科目においては、低い評価から始まるといえるが、平成16年度から、17年度、18年度と高い評価へと顕著に推移している点は、学科全体の学生の理解度のアップと共に学年が上がるにつれての学習の蓄積が大きいのであろう。

4-4 授業に対する興味度

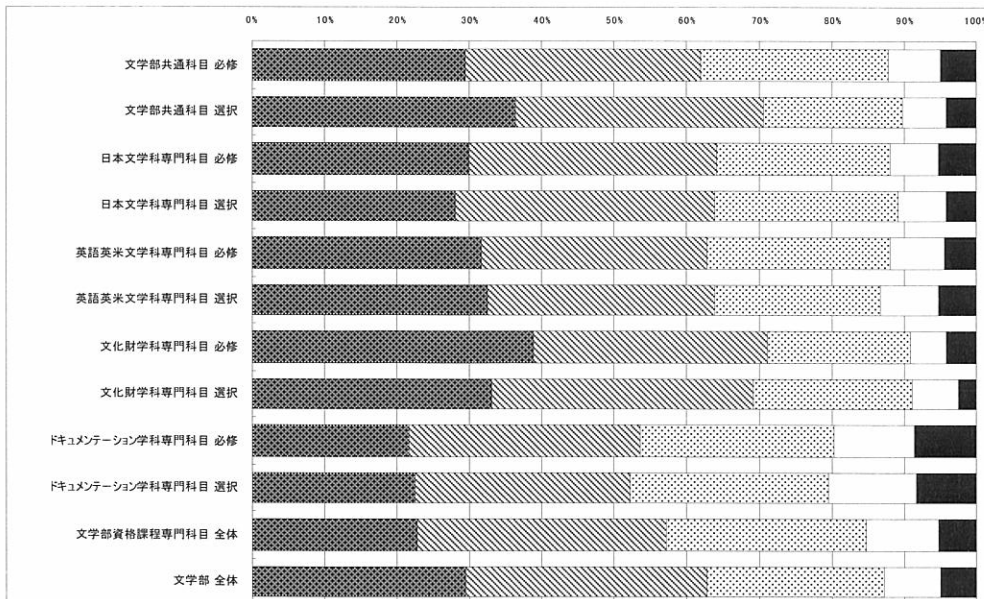
[設問 13] あなたは授業内容に興味を持ってましたか？



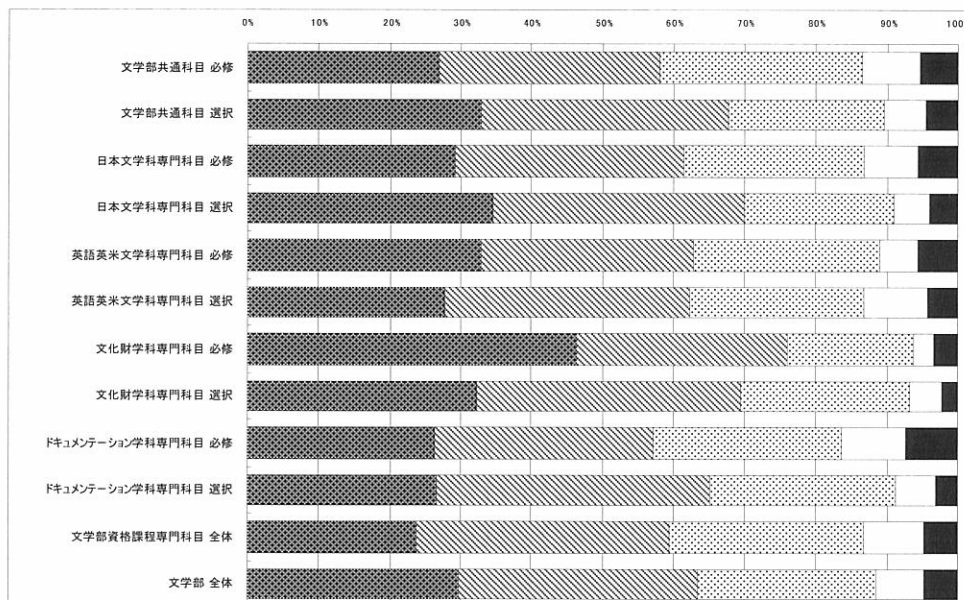
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



興味度に関する問いであるが、これは全体で「そう思う」が3割に届かないものの、「どちらかと言えばそう思う」が3割以上あるので合計で6割を大きく超える評価を受けている。そのなかでも文化財学科の専門必修科目は、平成16年度・18年度は4割を越え、5割に届こうとしている。これは、実習科目等が多いことにも因るのであろう。

また、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が7割に近づくものは、共通科目選択・日本文学科専門科目選択・文化財学科専門科目必修・文化財学科専門科目選択、そしてドキュメンテーション学科専門科目選択がある。

学生全体の興味・関心を保つことが、より良い授業のスタートともいえよう。今後ともこの数字を超えるような、興味のもてる授業を目指し、内容の充実、教授法の工夫等を行なわねばならないであろう。

Ⅱ．調査結果を受けて

— 各科および共通科目・資格課程 —

【日本文学科】

履修理由は、選択科目も「必修だから」とする割合が他学科より高い。選択の自由度が低いか、積極的選択を誘引する内容に乏しいことを示している。出席・意欲的参加・授業外学習の様相は、全般に文化財学科に劣り、必修科目への意欲や授業外学習は他学科に劣る。経年に改善の傾向もうかがわれるが、必修科目の学生の重圧感、受動的学習意識を改善する方向を模索する必要がある。教員の熱意や技術は改善の傾向で他学科にも劣らないので、さらに高める努力を払いつつ、制度・カリキュラム上の問題点を解消していくべきであろう。進行速度と分量・質問意見の言い易さ・理解度・成果等の不満がやや大きい点は、反面に満足・興味度が必ずしも低くないことにもうかがわれるように、教員側の要求レベルの高さを示してもいようが、また中等教育の学力低下を引きずっている面もあろうから、レベルを下げずに改善する方策として、入学前教育やリメディアル教育の本格的実施が求められようし、授業人数の少数化が必須であろう。それは、受講者数に対する評価にも顕れている。

総じて、出席率や参加意識や興味の度合いを高めつつ、満足度と学習成果を向上させるには、教えるべき内容と水準を維持しつつ、授業を魅力的にする教員の努力は勿論必要だが、カリキュラムの体系を保持しつつ、基礎と応用の演習系科目を増設し、選択の自由度を上げ、履修人数を少数化する等、カリキュラムを見直す相当程度の工夫が必要である。

【英語英米文学科】

英語英米文学科の数値の特徴として、授業の欠席率が高いこと、授業外の学習時間が多いこと、授業内容について理解した、および満足したという回答が多いこと、ならびに授業中質問等をしやすいとする評価が高いことが挙げられる。これらは特に専門必修科目に顕著である。必修科目は語学系と演習系の科目に分けられるが、これらは比較的少人数編成での授業が行われており、これが満足度や理解度に好影響を与えている一因と考えられる。同時に授業において適切な課題を与えられることで、理解できたという満足感につながることも注目したい。学生が主体的に取り組める課題を効果的に与える方法について組織的に研究する余地があるのではないだろうか。そのため学生自身の授業への取り組み方に関する質問項目についても、より詳細な調査の必要があるかもしれない。たとえば、授業に意欲的に参加したか、授業外の学習をしたか、を尋ねる項目について、その理由を調べたい。

「授業評価アンケート」が、各教員が担当授業に関して、一層自覚的・意欲的に取り組む一助とはなりえようが、それと同時に、授業の準備や学生の指導に当てることのできる時間が、ここ数年で大幅に圧迫されている現状も考えて、授業改善の取り組みを組織的に考える必要がある。

【文化財学科】

文化財学科の結果は、他学科と比較しておおむね良好な数値を示しているといえる。授業に対する満足度・興味度に関しては、特に必修科目において積極的に評価する結果となっている。これは入学時の学生の希望と、入学後の授業内容・指導の方向性が合致していると見て良いであろう。この必修科目は実習授業が中心となっているが、その内容・教授法に関して、さらに学生の希望に応えられるよう努力をしていきたい。

しかし一方で、必修科目の出席率と選択科目の出席率の落差（選択科目の不良）が目立つことが気になる。この点に配慮して、1・2年次生の必修科目の中から選択科目への「動機付け」を明確に行う必要がある。先に述べたように必修科目は、実習を含むためか高い満足度を示しているが、専門選択科目ではそうした授業が少ない。選択科目でも作業を含めるようにして、学生の興味を喚起するような授業方法を考慮すべきであろう。必修科目と選択科目の評価の差は、授業のみに頼ろうとする学生の姿勢もあろうが、「わかりやすさ」「調べやすさ」を今後より追求してゆく必要がある。

また、予習・復習をしないことは、選択科目では特に顕著である。シラバスを事前に読んでいない学生も多いことから、学期始めに方向性をしっかり明示してゆくようにしたい。進行速度や話し方、資料提示にはあまり低い評価は出ていないが、理解度及び質問のしやすさに関して若干低い評価が見られる。教員が「わかりやすさ」と到達度、そして学生との相互性について常に気を配らなければならないことを示していよう。

さらにこのアンケート期間の3年間の推移を見ると、各質問項目に共通して平成17年度の評価の数値が低い。この年は新入生が多かった年であり、またこの頃から基礎学力の低下も顕著となってきたが、教員の努力により18年度は数値的には回復しており、今後ともこうした取り組みを継続して行く必要がある。

【ドキュメンテーション学科】

新設学科ということもあり、単純に他学科との比較はできないが、平成16年度の調査結果では他学科に比べて総じて低い評価であった。このような結果になった理由のひとつとして、16年度は在籍学生が1年生のみであったことがあげられる。17、18年と調査年次の進行にともない、他学科との評価の差は少なくなっている。

個別の調査項目に関しても同様な傾向であった。例えば、16年度で他学科より低い評価結果であった、教員の話し方、板書や資料提示法、授業の進行速度、質問のしやすさ、理解度、満足度、成果、興味度などの調査項目でも、18年度では他学科と同程度の評価となっており年次の進行にともなう評価の改善が認められる。1年生の専門科目の授業について、教員の話し方、板書や資料提示法、授業の進行速度、質問のしやすさなどの点で、特に、工夫と改善が必要と考えられる。

質問のしやすさ、理解度、満足度、興味など、多くの調査項目で「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合計して6割前後であった。このことから、残りの約4割の学生は、授業に充分対応できずにいることが推測できる。今後、質問のしやすさ、理解度、満足度、興味などを向上させるために、現在の学生の学力に充分配慮した授業内容の改善・対応に向けての取り組みが必要であろう。一方では、授業によく出席し、理解度、満足度が高い学生が、さらに意欲を持って学べるような授業形式の工夫や教室設備などの改善も必要である。

【共通科目】

履修理由として、「時間割」と「シラバスの内容」とが同じポイントになっている。今後は「シラバスの内容」を理由とする傾向を生むよう努力したい。参加意欲と内容への興味では、総じて6割を超える高いポイントを示している。但し、参加意欲では必修科目が、内容への興味では選択科目が高いポイントを示している。

教員の熱意に関しても、総じて高いポイント(8割)を得ているが、その具体的な視点として、話し方(7割)や資料の示し方(6割)になると、ポイントが落ちてくる。これは、教員側が自らの熱意に技術が追いついていないと読むこともできる。但し、資料の示し方については、学生の席取りや教室設備なども考慮に入れる必要があり、今後の調査課題であろう。

受講者人数については、人数が多すぎるという声が4割近くある。データ全体では、少人数クラスほど満足度が高い傾向が見られるが、単純に人数だけを主要因とすることなく、大学経営の工夫と合わせて満足度を高める工夫が今後の課題となる。

共通科目では、平成18年度から新カリキュラムが開始されたが、授業アンケートの結果を十分に参考にしながらこの評価を行い、継続して改革・改良を進めてゆきたい。

【資格課程】

資格課程は、教職課程、司書課程、司書教諭課程、学芸員課程に関する科目からなる。資格科目はほぼ必修であり、選択の余地は少ない。出席状況はかなりよいのだが、授業への積極的関与は他科目よりも低い傾向がみられた。「予習・復習」、「授業への意欲的な参加」などの項目において特にそういった傾向がみられた。

授業内容への満足度や理解度も低く、今後の授業内容について一層改善の必要を感じる。今回の結果は4つの課程科目全体をまとめた結果であり、授業改善に対して具体的な情報となりにくい。今後、各課程ごとの分析や資格課程独自の学生アンケート実施などによって、より適切な授業改善に取り組みたい。

Ⅲ. 設問一覽

ここに、今回の調査に当たって使用したアンケート用紙を付しておく。

どのような設問項目であったか、また科目等の記述方法がどのようなであったか、その全体像を示すために使用した用紙をそのまま添付した。

次に、履修理由に関する「設問 1 あなたがこの授業を履修した一番の理由はなんですか?」と、受講者数に関する「設問 1 4 授業の受講者数は多すぎるかと思いましたか?」という設問に関しては、特に分析を加えることなくデータのみを提示することとした。

授業評価アンケート

このアンケートは、学生自身の授業態度の自己評価と教員の授業方法の改善に役立たせるものです。
アンケートのすべての設問について、感じたままを回答してください。

※記入・マークの注意

- 記入・マークは黒鉛筆を使用してください。訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- アンケート実施日、科目名、担当教員名を必ず記入してください。

アンケート 実施年月日	平成 年 月 日 ()		
科目名	担当教員名		

回答
a. そう思う。
b. どちらかと言えばそう思う。
c. どちらとも言えない。
d. あまりそう思わない。
e. そう思わない。

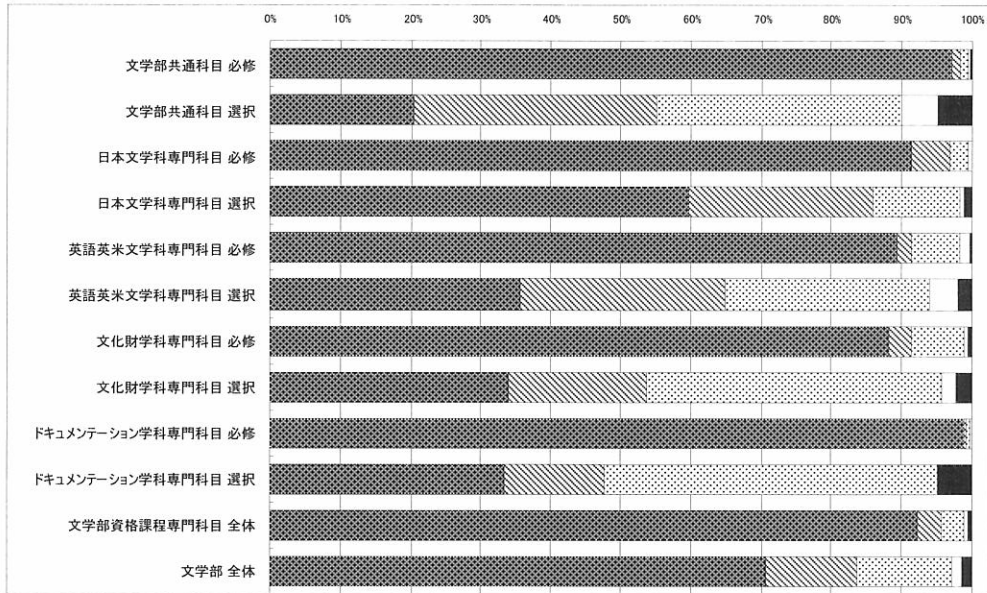
質 問	マ ー ク 欄				
1. あなたがこの授業を履修した一番の理由は何ですか? <small>a. 必修・必修選択科目、資格必修科目だから b. 時間割の都合 c. シラバスを見て授業内容に興味を持ったから d. 先輩・友人に薦められたから e. 単位が取り易そうだったから</small>	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
2. あなたはこの授業をどの程度欠席しましたか? (a. 0回 b. 1~2回 c. 3~4回 d. 5~6回 e. 7回以上)	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
3. あなたはこの授業に対して意欲的に参加しましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
4. あなたはこの授業に対して予習・復習など授業外の学習をしましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
5. 教員に授業に対する熱意が感じられましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
6. 教員の話し方・説明の仕方は適切でしたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
7. 教員の板書や資料の示し方は適切でしたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
8. 教員の授業の進行速度や内容の分量は適切でしたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
9. 教員の授業は質問や意見が言いやすい授業でしたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
10. あなたは授業内容を理解できましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
11. あなたは授業内容に満足しましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
12. あなたは授業を受けた成果がありましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
13. あなたは授業内容に興味を持ってましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
14. 授業の受講者数が多すぎると感じましたか?	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
15.	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
16.	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
17.	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
18. この授業に対する改善点・感想などがありましたら、自由に書いてください。					

履修理由

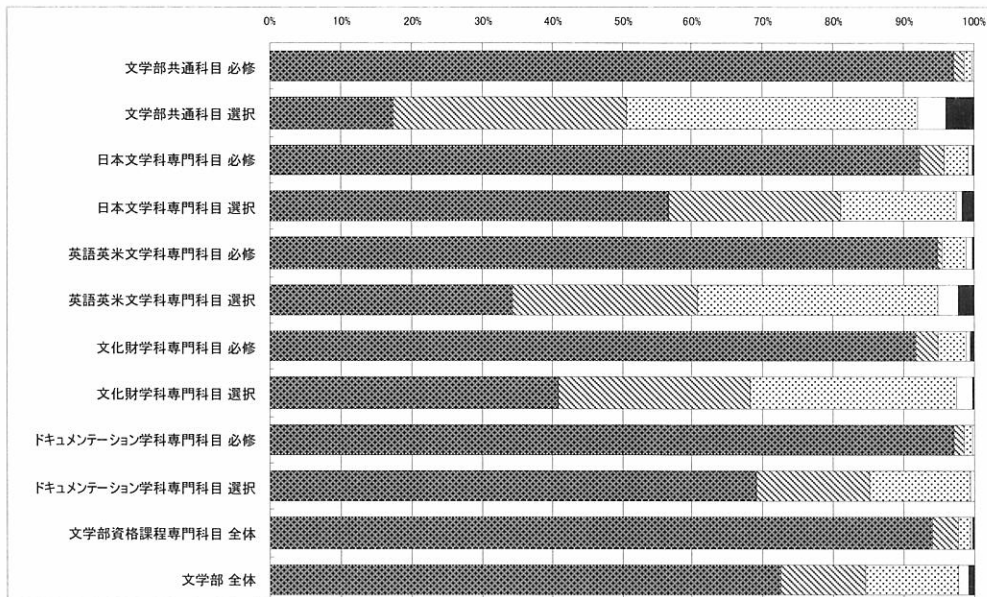
[設問 1] あなたがこの授業を履修した一番の理由は何ですか？



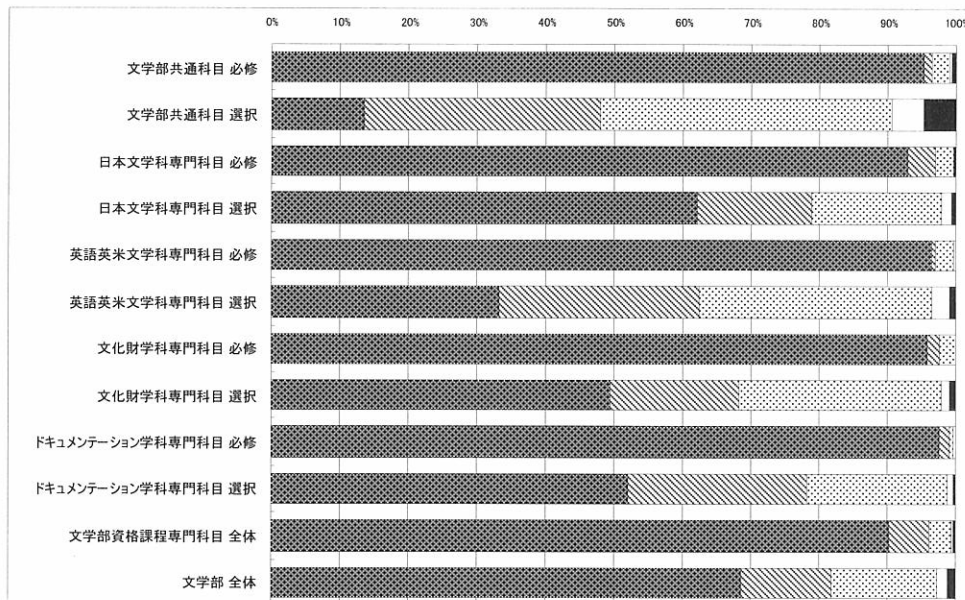
平成 16 年度



平成 17 年度

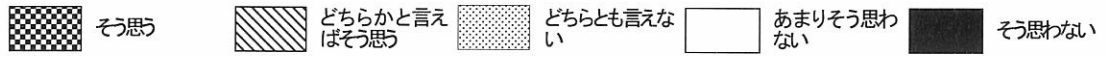


平成 18 年度

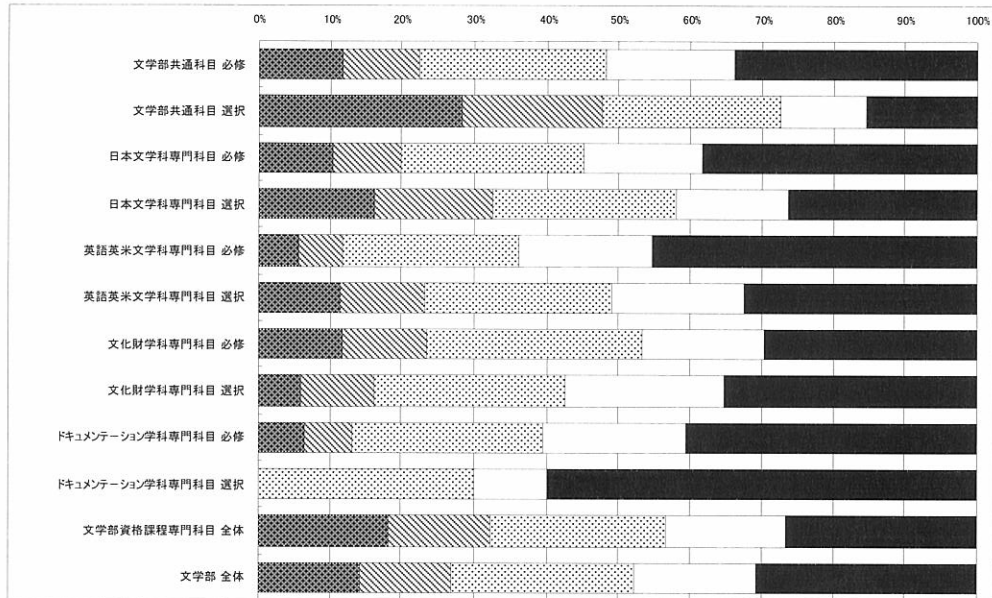


受講者数

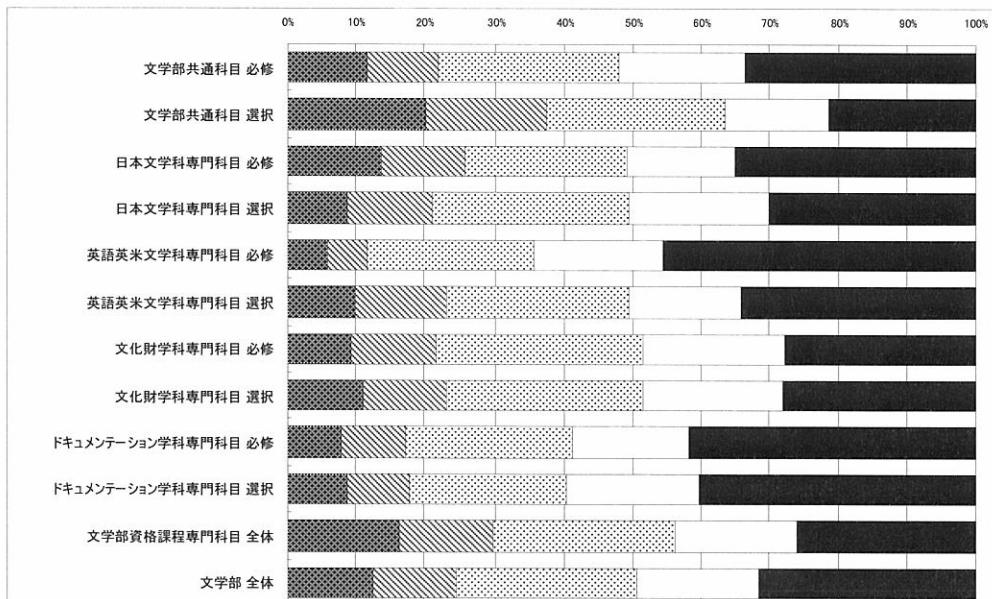
[設問 14] 授業の受講者数が多すぎると感じましたか？



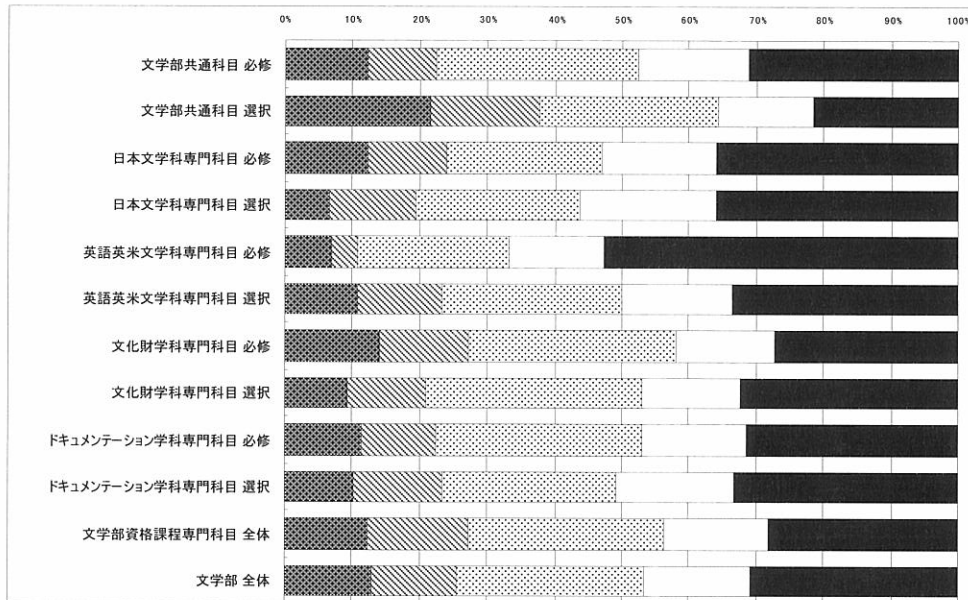
平成 16 年度



平成 17 年度



平成 18 年度



IV. まとめ

以上が平成16年度より18年度にわたる3年間の授業評価アンケートのデータと分析である。データからは、学生の意識や問題点について一定の傾向を読み取ることができる。そこから授業改善に向けての課題も見えてくる。さらに調査方法、授業運営の両面から個々の問題点を十分検討し、今後の授業運営の改善に役立てて行く必要がある。

今回の報告書を作成するに当たり、分析・提示の方法やアンケートの内容・設問、実施の方法等に関して様々な問題点も浮かび上がってきた。

まず第一に、アンケートの分析方法、提示の仕方に関してである。回収したデータをどのように分類し分析するか、今回は共通科目の必修・選択、さらに各科毎の必修・選択、そして資格課程科目、文学部全体とグループ分けを行って提示したが、その他の方法は考えられないか。分類の仕方、より詳細な分析の方向も含め検討すべきであろう。また、各設問ごとの結果に関しては、その煩雑さを避けるために数値は取らずに示さず、帯グラフのみの提示をおこなった。このデータの示し方についても、より良い方法について今後の議論を待ちたい。以上のように、データの処理、公表の仕方等に関しては、今後の課題である。

第二は、設問の内容である。設問相互に類似の内容を含み、学生の意識を正しく汲み取ることが充分行えたか問題が残った。より具体的で適切な設問、学生の意見や意識を正確に汲み取ることのできる設問にむけて改善してゆくことは今後の課題である。

第三は、調査方法に関してである。学生に学年を明示することを要求していない。困って年次進行にともなう意識の変化や推移に関してのデータは得られていない。また、各学科の専門・共通科目に関しては科目ごとの集計数値を示すことができるが、語学を含め各学科の学生が合同で履修する共通科目に関しては、学科による相違などは明らかではない。こうした細かな点も今後の課題である。

さらに、このアンケートの結果をどのように授業改善に生かしてゆけるのか、そのための具体的な方法をどのような形で提案してゆけるか、そこに本校のFD活動の一環としての本調査の大きな意義がかかわっていると言えるであろう。

今回行ったアンケートの実施結果・分析作業により、以上のような課題や問題点が明らかになってきた。これをふまえ、授業アンケート調査がより充実してゆき、今後の個々の授業及び学部全体の教育のあり方・方法を勘案することに資するものとなり、最終的に本学における学生の教育の充実に寄与することを祈念して報告のまとめとしたい。

文学部FD委員会

鶴見大学文学部授業評価アンケート報告書
平成 16・17・18 年度調査結果

平成 20 年 3 月

発行者 鶴見大学文学部長 永田勝久
編 集 鶴見大学文学部 F D 委員会

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
TEL 045-581-1001 (代)